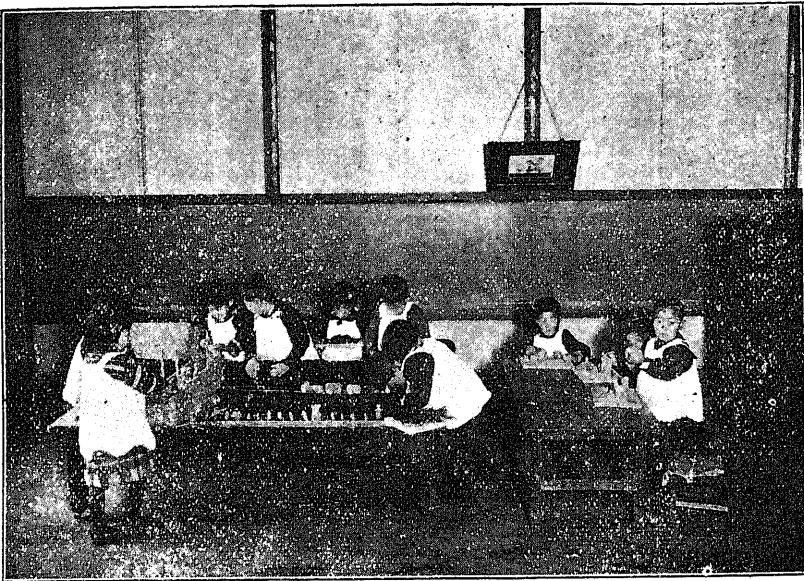


砂箱

—幼児の生活（四）—



幅九十粁、長百八十粁の大箱一ぱいに盛られた砂、幼児達は「聖橋にしよう」と、いひ出しました。そして中央を横に長く、一氣に砂を搔いて川としそのくせ丹念に両側の砂を叩いて岸に仕上げました。庭へ草をとりにゆく子があります。粘土を持ち出して来て路に欄をつける小兒があります。なか／＼よく細いところに氣がつきますが、しかも皆の興味の中心は雄大な聖橋にあります。一かゝへもある多量の粘土が、幾人かの小さい手で先づ太く長い矩形にたゞき固められました。そしてみると中にある復興局自慢の昭和新橋の一つが出来上りました。その粘土が乾き出すにつれて、次第々々に真にせまつてくる色工合を見めては、「コンクリート、コンクリート」といふわれながら満足したらしい叫び聲さへ、熱心な小さい技師達の口から出ました。——大人の箱庭、老人の盆景と全然ちがつて、現代のお茶の水の幼児が作った砂箱には、壯大美と現實美との美事な綜合があります。（倉橋惣三）